平成２３年度第１回岐阜県入札監視委員会議事録

平成２３年６月２２日（水）
議会東棟３階　執行部控室

【県発注建設工事、資格停止の運用状況等に関する質疑応答】

（質疑なし）

【抽出事案に関する質疑応答】

１　公共　社会資本整備総合交付金（急傾斜地崩壊対策事業（池田工区））（翌債）工事

委員：この一般競争入札に参加可能な業者は、管内に何社あるのか。

説明者：２０者ある。

委員：落札率が比較的高いが、このような落札率が多いのか。

説明者：落札率が比較的高い案件もある。

２　公共　農山漁村地域整備交付金事業　下呂～萩原線（2-2-1工区）開設工事

委員：総合評価落札方式を採用することは賛成であるが、手間がかかると言われている。今回、技術提案がない案件でも、公告から落札者決定まで１ヶ月かかっている。

説明者：基準に基づいて行っているが、総合評価審査会の意見を聴き、技術資料の提出、審査、点数付け等、指名競争入札と比べると工程は非常に多い。

委員：機械保有状況の項目について、自社保有とリースを分けて、自社保有を高く評価する必要があるのか。また、営業拠点では市内が１点、市外は０点と極端な配点であり、新分野活動も実績ありが１点、なしが０点という配点になっている。評価項目は、現実に合った公平なものにする必要がある。一番良いのは、安くて品質も良い業者を選定することであり、配点を三段階にする等、きめ細かく工夫をする必要がある。

委員：今回の入札では、Ａ等級とＢ等級の業者が応札しているが、Ｂ等級の方が評価点が低い。等級と総合評価の評価点との因果関係はあるのか。

説明者：等級が異なっても、評価点自体は同じである。

委員：今回の結果は、規模の小さい企業の方が点数が低くなるという典型であるが、単にスタッフが少ないこと等が不利となって受注できないということになるので、評価項目を考えるべきである。

説明者：評価は、業者の状況で持ち点が決まってしまうことになり、大手が有利になるため、等級を分け、受注実績、過去の実績などを勘案して発注している。また、優良工事施工者表彰や工事成績評定点の評価項目では、業者の規模には関係なく、良い工事をすることで評価に反映することを説明している。

委員：機械保有状況については、リースの場合は自社保有の半分になっているが、業者はリース債務で経費化しているのであり、保有と同じことなので、不十分な評価だと感じる。技術力は必要だが、評価項目の評価点が極端に割り切られているように感じる。

説明者：評価点は県で統一して設定している。機械の保有状況や常勤雇用のスタッフ数の評価については、地域で期待される建設業として、災害時の対応に必要なスタッフ数や、すぐに調達できる自社保有の機械を確保する狙いがある。

３　公共　一般国道改築　金山下呂トンネル消火設備（債務）工事

委員：総合評価の案件は落札率が低いようだが、落札率に因果関係があるか。

説明者：平成２２年度の県の平均落札率は、指名競争では９２．３％、総合評価の一般競争では８９．７％となっており、平均では総合評価の方が低くなっている。

委員：総合評価で、価格が一番低い者が落札者にならない逆転入札はどのくらいあるのか。

説明者：平成２２年度は、総合評価を実施した５８０件中、逆転入札が５１件あった。

委員：総合評価の評価基準はどのように決めているのか。

説明者：外部の学識経験者が委員となっている総合評価審査会の意見を聞いた上で、県の入札参加資格委員会で決定している。なお、総合評価の評価基準は全て公表している。

委員：総合評価は、評価基準の設定が重要であり、理解を得られることが必要である。

説明者：評価基準は随時見直すことにしており、次回改正の参考にさせていただきたい。

４　公共復旧治山事業　中津川市加子母猪谷４地区工事

委員：本件も落札率が比較的高く、入札額が接近している。

説明者：特殊な工事ではないため見積りの幅が狭くなったこと、現場が山間の傾斜地で条件の厳しい場所であり、比較的高い落札率になったと思われる。

委員：価格が高止まりすることは良くない。監視委員会で議論していることを示す必要がある。

５　県営湛水防除事業　柳瀬工区　第３号排水機場（建築）工事

委員：本件は辞退者が非常に多い。

説明者：経済対策として前倒しで発注しており、業者も継続工事を持っている中での入札であった。

委員：これだけ辞退があると指名競争の意味がないので、一般競争にした方がいいのではないか。

説明者：前倒しで３月中に契約する必要があり、指名競争で行った。

委員：補正予算を付けて早く仕事を発注したのに、業者が応じてこなかったのか。

説明者：全部の工事で辞退が多かったわけではないが、発注工事数はやや多かった。

６　ソフトピアジャパンセンタービルＣ－ＧＩＳ整備工事

委員：随意契約の説明書や経緯を見ると、最初から競争入札に適さないように思われる。

説明者：工事全体としては地元の業者でできると判断して競争入札を行った。コストを下げることが大原則であり、金額の妥当性を図る意味で、できる限り入札で行いたいという思いもあった。

委員：随契金額の妥当性を検証する意味でも、入札を行ったのは意味があったと思われる。

委員：機器の製造メーカーしかできない部分があるのか。

説明者：工事の一部に、製造メーカーの協力が必要な部分がある。

委員：結果的に、メーカーと直接契約して安くなったのか。

説明者：手続きを経たことで安くなった。また、メーカーの保証で直した部分もあった。

７　岐阜高等学校屋内運動場建築工事

委員：低入札を繰り返していても、適切な施工が行われているということで決定したのか。

説明者：詳細な低入札価格調査を行った結果、契約内容に適合した工事が行われないおそれはないという判断をした。

委員：今回、応札した７者全てが低入札基準価格を下回っているが、予定価格の積算自体がおかしいということはないのか。低入札価格調査の中でも、建築工事が多い。業者の努力は別として、設計基準が高いのではないかと疑われる。

説明者：予定価格は、基準に基づいて適切に積算している。

委員：予定価格と落札額の差が約１億４千万円あり、開きが大きい。

説明者：内訳書によると、共通費で約６６％のコストダウンをしている。現場の費用となる直接工事費は約８２％となっており、下請け業者の継続工事、集中購買によるコストダウン等、工事費低減の理由が説明されている。

委員：今回の抽出工事の中には、入札率が全体的に高い案件もある。企業努力でこれほどの違いがあるのか。

説明者：同じ基準で積算しているが、落札率が高い案件もあり、低入札の案件もある。物件ごとに応札業者の取り組み姿勢にバラツキがあり、一概には言えない。

委員：規模の小さい工事は、余裕が少ないので落札率が低くなると割に合わないのではないか。
本件は予定価格が約６億７千万円という大きな工事であり、トータルでは諸経費に余裕が出てくると考えられる。